

広がるはただ青き旅路ぞ

(平成二十三年度寮歌)

安田龍平君 作歌
我如古弥司君 作曲

春風吹きゆく原始の森に吾れ微睡みて酒宴して逍遙すれども其の歩は止まず
危急の時代にあればこそ渦巻く疾風吾が勇を呼び怒涛は汝れに義を求む
今ぞ吾等が誠を奮い高唱いて進まん青き旅路を

星は昂々美稲超えて
玉黍を食む旅鳥や
染まず彷徨う其が白羽に
斗星と大志の結ぶ瞬間
広がるはただ青き旅路ぞ

月は朧々輝光は幽か
梢叢分けて河に落つ
水面に透くきみが底に
己が混濁をうつし見て
孤月仰ぐ子よ誰が為に泣く

宙は悠々逍遙の果て
芝草を枕に星を抱く
有情の声に朋友和す寮歌を
讃えて天宙を見仰げば
広がるはただ青き旅路ぞ

花は灼々壤撃つ酔いを
君影草の鈴音にきく
さればこの手を春陽高く
翳して情熱をうち燃やし
濃緑に萌ゆ白花に誇らん

雪は皚々大地軋めて
氷嵐まさに街を呑む
無明の曠野に巨熊眠るも
弦を矜持と爪弾けば
嗚呼黎明に吹雪も霧散す